



発行日：平成30年7月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第47回山部会WGを開催しました！

6月8日(金)に第47回山部会WGが豊田市足助地区にて開催されました。今回のWGでは、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域山村ミーティング、流域圏担い手づくり事例集、矢作川流域木づかいガイドラインに関して、現時点の活動状況と今後の予定について情報共有と意見交換を行いました。



日時：平成30年6月8日(金) 13:30~17:00  
場所：豊田森林組合庁舎 会議室 参加者：21名(事務局含む)

### ◆主な会議内容

#### 1. 矢作川流域森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインでは、以下の項目について情報共有と意見交換を行いました。

◆故 原田裕保氏(元豊田市産業部長)の業績について

生前に親交のあった方々からお話を伺い、改めて故人の業績についての意見交換を行いました。

◆新豊田市100年の森づくり構想の概要について(豊田市産業部 鈴木晴彦様、中島諒大様)

2008年度以降、過密人工林の減少、地域森づくり会議方式の普及など一定の成果をあげた一方で、材価の低迷や森林作業員の減少などは依然として改善されていません。また、新たな課題として、国の林業政策の転換や皆伐対策が未整備であることなどがあげられます。新たな森づくり構想では、以下の6つを柱として取り組んでいきます。

①新しい森林区分(ゾーニング)の設定 ②人工林の整備状況の評価と目標の再設定 ③人工林の目標林型の設定と将来木施業(新たに追加された概念)の導入 ④木材生産・流通の低コスト化 ⑤森林保全のルールの新規設定 ⑥森づくり人材の育成

◆市町村林務行政に関わる森林管理技術者の再教育の必要性について

近い将来に施行される森林経営管理法は、森林所有者が森林管理を行えない場合において、市町村が意欲と能力のある林業経営者に繋ぐ、もしくは直接管理することが義務になります。そのため、受け皿となる市町村の林務職員の能力向上が課題であり、大学等の高等教育もその一部に含まれています。

#### 2. 矢作川流域山村ミーティングについて



山村ミーティングでは、矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングを実施しています。現在、半分程度を終えました。林業の教育の問題、森林組合内での横のつながりが不足しているなど、各地域に共通するさまざまな課題が明らかになってきました。また、9月2日に開催される矢作川感謝祭については、前夜祭の開催も予定しています。前回参加した森林組合(根羽村森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合)に加え、農協の出展が決定しました。

#### 3. 流域圏担い手づくり事例集について



「流域圏担い手づくり事例集Ⅱ」の作成に向けて、取材先の選定を行っています。取材先候補は現在、山の関係団体が12団体、川の関係団体が7団体となっています。現在、根羽村の漁協組合への取材も行いたいと考えています。

◆さくしま陽春のエコツアーの結果報告(矢作川環境技術研究会 野田賢司様)

本ツアーは、4月に実施された事例集交流会2018の2日目のエクスカージョンとして実施されました。3つのコース(山川海部会の活動のつながりを短時間で把握できるミニ流域圏コース、地史的変遷の流れを感じる時空ふれ合いコース、陸域と海岸の生態を観察する生命圏つながりコース)における、島の自然の科学的な調査結果について報告いただくとともに、意見交換を行いました。

#### 4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインでは、以下の項目について情報共有を行いました。

◆木づかいガイドライン・木づかい推進について

ガイドライン作成にあたって、取材や地域材に係る木づかい事例・活動などの情報を収集し、事例集のようなものを作成したいと考えています。また「私の流域ものがたり」の作成も進展させていきます。

◆農山漁村振興交付金について

根羽村において「森と源流の郷 NEBA 協議会」を中心に農泊を推進していきながら農業や漁業、林業の技術の伝授を通して地域の活性化を目指していきたいと考えています。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●矢作川流域森づくりガイドラインについて

《故 原田裕保氏(元豊田市産業部長)の業績について》

- ・ 森林経営管理法において森林所有者の責務が明確化されたことは、原田さんの思いに一致するところがあると思われる。(蔵治)
- ・ 規模の大小に関わらず山の所有者は山を持つ苦悩と孤独感を持っている。原田さんはそこにどう寄り添っていくかを考え、山林の自治というものを目指していた。(丹羽)

《新豊田市 100 年の森づくり構想の概要について》

- ・ 針広混交林化技術の未熟という課題に対して、何かアイデアはあるのか。(今村)
  - ▶ 新構想で新しい森林区分に再編成し、針広混交誘致林を整備するとともに、現場の状況に応じた施業を判断できる技術者を育成していきたい。(鈴木)
- ・ 森林ゾーニングの際の所有者との合意形成とゾーニング後の活用はどのようにしていくのか。(蜂須賀)
  - ▶ 森林組合と豊田市がバックアップして、森林所有者を中心に境界確認と間伐を行ってもらう。この中でゾーニングを提案する機会を作り、所有者の同意をとりながら区分して、目標林型をイメージした間伐を進めていく。(鈴木)
- ・ 森林経営管理法や新しくできた法律(森林環境税)と新構想との兼ね合いや位置づけはどのようになるのか。(蜂須賀)
  - ▶ 新構想やこれまでの施策に沿って資金(森林環境税)の運用や活動を進行させるような形で考えている。(鈴木)



### ●矢作川流域山村ミーティングについて

《矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリング》

- ・ 森づくり会議に代表される森林自治について、十分に評価すべきだ。(丹羽)
- ・ 管理後の山の価値に対する評価方式の取り入れなど、作業者の士気を高める新たな雇用体制の整備が必要。(林)
- ・ 経営者や市役所職員、森林組合の職員が現場に出て、作業員とコミュニケーションをとれる環境を作りたい。(林)
- ・ 林業作業員の定着率が悪い。改善していくためには森林組合の受け入れ体制を見直す必要がある。(今村)

《矢作川感謝祭》

- ・ 矢作川感謝祭が森林組合同士の横交流の場となればよいと思う。(丹羽)
- ・ 感謝祭で個人の技術を披露する場を設け、子どもたちが林業に興味を抱く場にできればよいと考えている。(丹羽)

《その他》

- ・ 来年の春を目標に有志で実行委員会をつくり、いかだ下りを復活させようと考えている。(新見)

### ●流域圏担い手づくり事例集について

《流域圏担い手づくり事例集》

- ・ 根羽村の漁業協同組合さんは積極的に活動しており、訪問者の面倒や冷水病などの話が聞けると思われる。(今村)
- ・ 取材者の人数が不足ぎみの状態であるため、協力をお願いしたい。(蔵治)

《さくしま陽春のエコツアーの結果報告》

- ・ 白浜のごみの量が非常に減少した。ボランティアや小中学生の活動の賜物であると思う。(松井)
- ・ 庄内川と比較した結果を見ると、矢作川はそれほど濁っていないことが分かった。(野田)

### ●矢作川流域木づかいガイドラインについて

- ・ 地域材に係る木づかい事例集が整理されれば、森林環境税の使い方の参考になるかもしれない。(蔵治)
- ・ 根羽村以外の森林組合の木づかいについても、是非この場で取り扱うことにしたい。(今村)

### ★振り返り

**よかったと思うこと:** 森林組合の役割の重要性がわかったこと。/配布資料が多く話し合いの参考になった。/新構想に関する行政の意見が聞けた。

**よくなかったと思うこと:** 官民学全員参加の新構想になっていない。/話し合いの時間が不足。/会場がわかりにくい。

**今後、取り組んでいきたい活動など:** 森林組合の方に山林の保全に対するプライドをさらに高めてほしい。/身近な水環境の全国一斉調査への参加。/森林保全。

## 今後のスケジュール(予定)



次回の山部会 WG は、7月6日(金)~7日(土) 恵那(明智)にて開催します。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

